

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年10月19日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、イギリスのEU離脱問題、シリア情勢、22日に即位礼正殿の儀 【特集】大水害の爪痕と減災への備え、【特集】“側近”が語るゴーン事件		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風19号の爪痕</li> <li>・オープニング</li> <li>・台風19号が上陸してから今日で一週間</li> <li>・イギリスのEU離脱問題</li> <li>・福岡で小学生の乗ったバスが転落し10人がけが</li> <li>・堺市の祭でだんじりがカーブを曲がれない事故</li> <li>・シリア情勢</li> <li>・埼玉県東松山市で決壊堤防の復旧作業が今も続く</li> <li>・22日に即位礼正殿の儀</li> <li>・【特集】大水害の爪痕と減災への備え</li> <li>・【特集】“側近”が語るゴーン事件</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし                      オープニングでは金平キャスターがスタジオで「これほどまでに広範囲にかつ同時多発的に川が反乱し、人々の暮らしを破壊した台風は近年ありません。心よりお見舞いを申し上げます、自然災害に対する私達のこれまでの考え方も変わらざるを得ないでしょう。もう一つの特集では日産の元代表取締役の単独インタビューをお伝えします。」と述べていた。このコメントに当てられた時間は22秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・イギリスのEU離脱問題：                      スタジオでの日下部キャスターの「次のニュースです。イギリス議会はEUとイギリス政府が新たに合意した離脱案についての採決を日本時間の今夜行います、ロンドンから中継です。」というコメントを受けて、中継のアキバ聖治記者の「議会はつい先程から始まっています、土曜日に議会が開かれるのは1982年のフォークランド紛争当時以来ということで、まさに国家の一大事です。ジョンソン首相が持ち帰った新たな離脱案はイギリスの北アイルランドを関税などの分野で他の地域と区別して扱うもので離脱後もアイルランドの国境を今まで通りオープンにしておくものです、このため保守党政権に閣外協力してきた北アイルランドの親イギリス派政党が反対を表明しています、保守党はただでさえ過半数を下回っていて、いずれの結果になるにせよ、ギリギリの票差になると見られています。仮に承認を得られて関連法の整備が間に合えばイギリスは31日にEUから離脱することになります。移行期間が設定されるので、大混乱は避けられると見られます。否決、あるいは今日は承認されないということになった場合、法律上、ジョンソン首相はEUに延期を申し出ることになっています、そうなれ</li> </ul>		

ば総選挙の可能性も見えてきます、注目の採決は日本時間午後 10 時半以降に行われると見られます、以上、ロンドンから中継でした。」という報告のコメントが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は 85 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・シリア情勢：結論→特に問題なし

シリア情勢について、ナレーションによって「トルコがシリア北東部でのクルド人勢力に対する軍事作戦を 120 時間停止することでアメリカと合意してから一夜明けた 18 日、国境沿いの街で散発的な交戦が続いています。NGO シリア人権監視団はクルド人勢力の戦闘員 5 人が死亡したほか、複数の民間人にけが人が出ていると報告していて合意が維持されるか予断を許さない状況が続いています。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 29 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・22 日に即位礼正殿の儀：結論→特に問題なし

スタジオでの日下部キャスターの「来週 22 日の即位礼正殿の儀に使われる高御座と御帳台が皇居の宮殿に設置され報道陣に公開されました。」とのコメントを受けて以下に朱記したようにナレーションで伝えられた。ナレーション「輝くばかりの高御座と御帳台。即位礼正殿の儀の際には天皇陛下は高御座に上がって即位を宣言されます、高御座は高さおよそ 6.5 メートル、重さがおおよそ 8 トン、全体が漆塗りで八掛機の屋根の上には鳳凰の飾りがついています、皇后様が上がられる御帳台はその隣りにあり、作りは高御座とほぼ同じですが大きさが少し小振りとなっています。この 2 つは大正二年に作られ普段は京都御所にありますが、即位礼のため、去年、解体して東京に運び、修復した上で松の間に組み立てられました。一方、皇居に隣接する北の丸公園では即位礼正殿の儀に祝意を表す礼砲をうつ自衛隊の礼砲部隊が最終の訓練を行いました、訓練には陸上自衛隊第一特科隊の隊員およそ 50 人が参加し、発射の手順などを入念に確認しました。当日は安倍総理の万歳三唱に合わせて・・・・・・・・」

このコメントに当てられた時間は 86 秒だった。

なお、ナレーションの「当日は安倍総理の万歳三唱に合わせて」の部分で、映像と音声途切れており、次のトピックに移っていた。

・【特集】大水害の爪痕と減災への備え：結論→特に問題なし

スタジオで膳場キャスターの「特集です、今日も雨に見舞われた被災地、台風 19 号は大水害をもたらしました。」というコメントを受け、日下部キャスターが「今回の水害では雨がそれほど降っていない土地でも川が増水、反乱したケースが目立ちます、そして新たな問題も、各地の現場で取材しました。」と応えた後に、以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

金平茂紀「ええ、宮城県の丸森町に来ていますけれども、ここから先はご覧のように浸水していてですね、奥の方に役場があるんですけどもまったく近づけない状態ですね。住宅街はもう本当に水没していてまったく、こう車は使うことはもちろんできませんしボートがなければ移動もできないという状態が続いています。」

ナレ「12 日に 24 時間で 558 ミリの雨量を観測した宮城県丸森町。取材した 14 日も町役場など中心部は冠水していた。山間部の土砂崩れは少なくとも 150 箇所に登る。この日も自衛隊や警察等に加え、災害派遣医療チームも活動していた。」

金平茂紀「ええ、緊急搬送された方、ご高齢の方一人ですね。」

ナレ「友人との再会も。小野由佳さんは娘の歌穂さんと一緒に救助されたがまだ自宅は水に浸かったままで戻れ

ないという。丸森町に隣接する角田市でも。畜産農家佐藤政康さん。自宅部分の水は引いたが、隣の牛舎がまだ浸水していた。」

金平茂紀「牛舎に牛いるんですか。」

佐藤政康さん「7頭、ここまで。」

金平茂紀「かわいそうだけどちょっとね。」

佐藤政康さん「ただ、今の所ね、まだ生きている、けどなかなか水が惹かなくて。」

"

"ナレ「翌日訪れると、」

金平茂紀「あ、生き残ってる、良かったね。牛いるわ。」

佐藤政康「やっぱり生きたんだ、生命力あるんだね。」

ナレ「二日以上、水に浸かりながらも無事だった。」

金平茂紀「今日は、ようやく水が引いて、車の通行ができるようになってますね、町役場の屋上から見渡すと昨日までずっと覆っていた冠水、ですね、水没している箇所がいっぱいあったんですが、流石に町役場の周りも水が引いた状態になっています。」

ナレ「水が引いた地区を歩くと、前の日、ボートで救助された小野さんが自宅の片付けをしていた。」

金平茂紀「今日戻ってきたの。」

小野由佳さん「水引いたって旦那が確認してくれたんで戻ってきて、一階はまずだめで。」

金平茂紀「戻ってみてどうでした、今日。」

小野歌穂さん「なんかもう避難しているときにあぁもうだめだと思っていたんで、そこで気持ち切り替えて、もう片付けようって。」

小野由佳さん「宝探しのようね。」

小野歌穂さん「はい。」

"ナレ「大学卒業を控えた歌穂さんは今回の台風を経験して街に残る決心をしたという。」

小野由佳さん「丸森にいてくれるって言ったから信じてます。丸森に就職してくれるってこれ見て言ってくれたから信じて。」

ナレ「未だに被害の全容が明らかになっていない丸森町、死者、行方不明者は10人に登る。」"

"ナレ「千曲川の堤防が決壊し南北後キロに渡って水没した長野市、」

日下部正樹「水がかなり引いてきたんでこうやってどんどんどんどん、この地区に住む人が戻ってきています。」

ナレ「住民は雪かき用のスコップなどを使って懸命に泥を掻き出していた。農業用機械の整備書を営む小山田昌弘さん、この日の朝、家の様子を見に、避難所から戻った。」

小山田昌弘「生まれてこの方こんなことはなかったことはないんですけども、」

日下部正樹「特に他の家を見ててもここは直撃を受けた。」

小山田昌弘「そう、多分流れてきて水圧が強かったんですかね、ガラスの枠ごと割れちゃっているんで、朝きてみて愕然とする状況ですね。」

ナレ「濁流は自宅の中にも押し寄せた。」

日下部正樹「パソコンが由佳の泥の中から。」

小山田昌弘「いや、見事だな、ここまで、もうだめだよな。」"

"ナレ「米やりんごを栽培する米沢孝典さんの家も一階が浸水した。」

日下部正樹「結構壁が浮いちゃってます。」

米沢孝典「ああ浮いちゃってる仲間で泥がある、ヒデェもんだぜ。」

日下部正樹「この中に収穫したばかりのお米入っていたんだ。」

米沢孝典「全部積んどいた、ここまできちゃったんだからさ、もう全部ダメ。」

ナレ「蔵の扉は木製のため、水を吸って膨らんだのかビクトもしない。」

米沢孝典「せっかくコシヒカリのいいのをみんなに食わそうと思ってつくったのに全部ダメだわ。」

日下部正樹「コシヒカリ。」

米沢孝典「ああああ、もう一粒も食べないで終わりだ。」 "

"ナレ「水は引いたが家の前には深さ 30 センチほどの泥が残っていた。この夏にリフォームしたばかりの浴室や台所も泥まみれに、」

米沢孝典「これだけのものを直すって言ったって、もう資金が間に合わない。」

ナレ「生まれてから 80 年以上暮らしてきた家。生活再建の見通しは立っていない。」

日下部正樹「ああ、ここだ、まさに現場だ。ええ、あちらのですね黄色い重機からですね大体 70m 位、青い重機にかけてですね、堤防が決壊し、大量の水が私の方に向かって流れ込んできました、そしてその水は個々にあった神社を跡形もなく押し流して集落に向かって流れ込んだものと見られます。」

ナレ「200 年以上前から地域に親しまれていた神社は、濁流に飲まれた。基礎部分だけを残して流された家もある、周りの景色は変わり果てた。」 "

"ナレ「この地域は過去に何度も水害の襲われてきた。決壊現場近くの寺にその記録が残る、これは代々の住職が水害のたびに本堂の柱に刻んできた水位。もっとも高い位置にあるのが寛保 2 年 277 年前のものだ。」

笹井義英（妙笑寺、住職）「柱は残っているんだけど、残念ながらその寺もこの有様です。今までの何百年で二番目に高い。」

日下部正樹「住職がここに」

笹井義英「不名誉な墨を入れなければいけない。」

ナレ「実はこの地区では三年前に堤防の幅を広げていた、補強した堤防を破壊するほどの水はどこからきたのか。」

日下部正樹「どんな雨でした。当時は」

決壊現場近くの住民「いつもより多いかなくらいな、極端に多い量ではなかったと思うんですけども。」 "

"ナレ「専門家はこう話す。」

牛山素行（静岡大学防災総合センター教授）「今回、雨が多かったのは千曲川の上流域ですね、自分が住んでいる周りで大雨にならなくても、上流域で大雨になると下流で、しかも時間的に少しずれてですね、もう場合によると雨が殆ど上がってしまった後になって水位が上がってくるというのはこれは河川の基本的な性質そのものなんです。」

ナレ「長野市でもっとも雨が降ったのは 12 日の午後 5 時頃だが千曲川の水位のピークは雨が上がった 13 日の午前 4 時頃だった。」

牛山素行「大きな河川の付近にいる場合は自分の周りの雨の量だけではなくて上流がどれくらい降っているかここに注目を向けなければいけないということになりますね。」 "

膳場貴子「このように相当な高さのある堤防が整備されているんですけども、あそこ、土嚢が積まれているまさにあの部分で堤防が決壊して川の水が住宅地へと流れ込んできてしまいました・」

"ナレ「福島県、本宮市、阿武隈川と支流の安達太良川が合流するこの町でも時間差で反欄が起き人が死亡した。阿武隈川が堤防を越えた現場、13 日の午前午後時過ぎ、川から水が溢れ、住宅地に向かって流れ込んでいる。この動画を撮影した、菊田広道さんは氾濫が起きる直前の午前 1 時頃、外に出て川の様子を見ていたという。」

膳場貴子「外に出て見られるということはそんなにも雨風はひどくなかった。」

菊田広道「ああ、もう全然ひどくないです。」

膳場貴子「全然ひどくない、傘さして見に行くような？」

菊田広道「いや、その時は傘さしてないです。」

膳場貴子「雨はもうやんでた」

菊田広道「雨はもうやんでたから、ほとんど」

膳場貴子「雨がやんでから。」

菊田広道「そうです、ここはいつもこの辺が降ってあふれるのではなくて、上流が降ってあふれるから時間差があつてある程度天気回復してきてから上がります。」

ナレ「菊田さんによると反乱した午前一時過ぎ、雨は殆ど降っていなかったという。また河川事務所によると本宮市で阿武隈川がもっとも高い水位を記録したのは午前3時、その時近くの雨量計の数字は0だった。上流での記録的な豪雨によって時間差で増水。下流に位置する本宮市で氾濫を引き起こしたものと見られている、急な増水の様子を捉えた映像がある、阿武隈川近くの駐車場は20分足らずに濁った水に浸かってしまった。この時間差の増水によって多くの方が自宅で孤立。二階などに避難を強いられた。」

"伊藤綾子さん「夜中の一時まではしたのトイレ使いに来てたの。わたし。このへんで済むと思ったの床上、それが予想外に一階の天井までついちゃって、それでどうしようもなく。」

ナレ「足が不自由な夫と暮らしている伊藤綾子さん、自宅一階が水に浸かり、二階に避難して救助を待った13日の夕方になってボートで助け出された。」

膳場貴子「本宮市の避難所です。小学校の体育館なんですけれども日中の時間帯は家の掃除、片付けに戻る方が多いので、今現在は10人前後の方が体育館に残っています。」

"ナレ「ここに避難している遠藤嘉子さんも自宅に取り残され救助された一人だ。」

遠藤嘉子「夜寝てたんですね風音も聞こえないし雨音も聞こえないし、そしたら娘が起きて起きて、水が上がってくるよ、というから、畳がだんだん浮き上がってくる、それで磯で二階に行ってお言われて、さっき寝ていたらお母さん死んでたよ、なんて言われて。」

ナレ「この日、本宮市周辺では最低気温5度を観測、避難所にはストーブが設置されました。」

膳場貴子「ここの避難所にはいつまでいるとかいう目処はあるんですか。」

遠藤嘉子「まだわからない。でも、電気入って色々炊飯器とかそういうの買えれば二階で暮らせる。したはまだまだだけど」

"ナレ「今回の水害で新たな問題も浮上した。福島第一原発後除染で出た汚染土だ。」

金平茂紀「ええ、実は報道特集では以前にこの丸森町にある原発の汚染土の取材をしたことがあります。ここがその汚染土の仮置き場です、台風の影響でこの一帯が水没したということがわかります。」

ナレ「今年2月に取材した際、シートで覆われていた汚染土の仮置き場は冠水によりどろ焼きが産卵していた。丸森町の保科郷雄町長を訪ねた。」

"保科郷雄（宮城県丸森町、町長）「原発事故よりも、今回のほうが大変だったかなというような感じています。」

金平茂紀「汚染土の仮置き場があつたでしょ、あれ、大丈夫なんですか。」

町役場職員「流出は確認していません、まだ調査員がいないのでこれからです。」

ナレ「丸森町は取材に対し昨日、」

宮城県・丸森町（音声）「シートが一部剥がれた部分があつたが、汚染土の流出は確認されていない」

ナレ「としている。汚染土への影響は福島県田村市でも。」

金平茂紀「今日は雨が上がったのですが、かなりの量の水がですねきたんだと思いますが、大量の土砂がこのあたりに来て、ここはもう流されたわけではないですけども積まれたフレコンバッグの下の方はもう埋まっちゃっていますね。」

ナレ「状況を確認していた作業員は。」

金平茂紀「これ、今回の台風で土砂崩れたんでしょ。」

作業員「だと思いますね、先週はなかった。」

金平茂紀「先週はなかった。ここ線量は上がりました？」

作業員「上がりました。ちょっと上がりました。」

ナレ「田村市は取材に対し、この仮置場ではフレコンバッグの内容物は流出しないものを確認している。土砂崩れによって流れた森林の放射線量が影響したと思われるが問題はないと考えている。としている。」

"ナレ「しかし、フレコンバッグが実際に流されてしまった現場もあった。」

金平茂紀「ここにいわゆる汚染土を積みこいだフレコンバッグが 2700 袋くらい仮置されているというふうになっていたんですが台風 19 号で生じた濁流がですね、ここを襲っていくつかのフレコンバッグが流されてしまったと。」

ナレ「流出後、中身のないフレコンバッグが 10 以上見つかっており内容物が外に漏れ出た可能性が高いという。フレコンバッグの流出は他の自治体でも確認されている。小泉環境大臣は国会で、環境に影響はない、と答弁した、昨日の会見では。」

"金平茂紀「あの、実は私、田村市の現場を見てきたんですけどもね、現場を見ますとね、フレコンバッグがこうひしゃげちゃってですね、しかも流れたものは中身が全部流出している状況を現認してきましたのでね、15 日の参議院予算委員会の段階で環境に対しての影響はないとおっしゃっていたのはむしろ撤回すべきじゃないんですか。」

小泉進次郎「これ現状については日々、更新された情報というのが入ってきますので、その都度丁寧な発表も含めてお伝えをしたいと考えております。歌詞有志宝袋については他の工事現場などで使用されていた可能性もある、ということからこの仮置場で除去土壌等の保管に使用していたものであるかどうか、も含めて今、詳細に調査中ということをご理解いただきたいと思います。」

金平茂紀「現在の仮置場というようなシステムですね、そのような形がこれまで現在のよう自然災害に対して有効かどうかみたいなことについてですね、見直すようなお考えというのはないのですか。」

小泉進次郎「私としても大変遺憾な事態であると考えています、福島県や市町村と連携して仮置き場の現場まで再発防止対策の実施を徹底してまいりたいと考えております。」

VTR を受けて、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

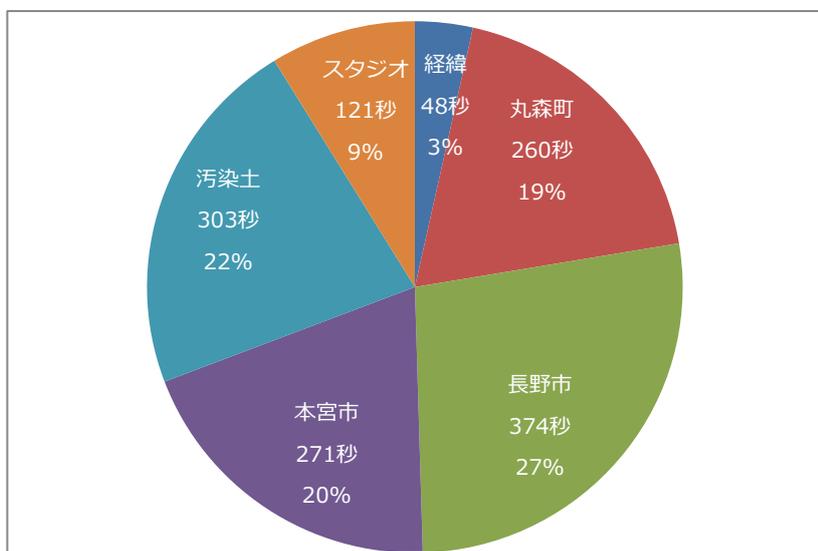
膳場貴子「あの、水が引いた被災地を歩きますと泥が乾燥して細かい粒子になった土埃が舞いますので目が充血したり胸が苦しくなるなんてことがありました q。また、雨が降ってくるとせつかく片付けてまとめておいた泥がまた流れ出すというような状態になっているところも見ましたし、また浸水して使えなくなった家財道具がね、本当に多くて通り沿いや処分場に山積みになっていまして中にはゴミの集積場で発火してしまったというような場所もありました。寒さも本格化していますし、一週間経つけれども被害は現在進行系で続いていると実感しました。」

日下部正樹「取材した長野市の穂保地区ではですね、数年前に堤防の拡張を行ったばかりで周辺の人もまさか決壊すると思わなかった、と。ちょっと油断していたという声も聞かれましたね。私は長野市上流の上田というところで生まれたんですけども全国でも降水量が少ないところで溜池がいっぱいあるようなところでそこでかつ

てないような雨が降ったということで、とにかく最近想定外の気象現象がこれだけ起きているわけですから、ダムや堤防だけではなくて想定内の事態のハードルもあげてですね、治水対策の抜本的に見直しが必要だと思いますね。」

金平茂紀「あのね、原発事故に関連したことなんですけれども汚染土の仮置き場とかですね、汚染廃棄物等が入ったフレコンバッグ置き場ですよ、そこにその濁流が押し寄せたりですね、水没したりして流出したりするというようなことが起きちゃったわけですよ。で小泉環境大臣とかですね、市町村は早々とね、環境に影響はありませんというふうに言ったんですがどうしてそういうふうに早々と断言できるのかというのは素朴な疑問ですけども、あの、仮置き場というシステム自体がこういう状態ですから、こういう状態で続くとはですね、汚染土管理というのは安全を守れないじゃないかと思いましたですね。」

この特集に当てられた時間は 1377 秒だった。特集では総論的な部分、丸森町、長野市、本宮市のそれぞれの被害状況取材しているシーン、汚染土について焦点が当てられているシーン、スタジオでのやり取り、それぞれの時間配分と比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】“側近”が語るゴーン事件：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「次の特集は日産ゴーン事件です。東京地検特捜部に逮捕起訴された被告はこの二人です。ゴーン被告が問われているのは、所得を少なくするために有価証券報告書に嘘の記載をしたと言う金融商品取引違反、そして日産の財産を私的に流用した特別背任罪です。一方のケリー被告が問われているのは、この金融商品取引違反の罪だけです。」というコメントに金平キャスターが「えーそのそのグレッグ・ケリー代表取締役は報道特集が単独インタビューしました」と応え、これに続く形で以下に朱記した特集の VTR が取り上げられていた。

"金平「Hello!My name is..」

ナレ「残暑の厳しい 9 月の午後、日産自動車の元代表取締役グレッグ・ケリー被告が番組の取材に応じた。去年 11 月にゴーン被告とともに逮捕され、1 か月後に保釈されて以来、裁判の準備に追われているという。」

"金平 (字幕) Q、役員のオフィスはどこですか？

ケリー氏 (字幕)「最上階の下階、21 階です。」

金平「21 フロア？OK!」

金平 (字幕) 「Q ゴーン氏のオフィスはあの右側ですか？」

ケリー氏 (字幕) 「右側です」 "

"金平 (字幕) 「あなたのオフィスは？」

ケリー氏 (字幕) 「ビルの東側のホールを隔てた場所です。」 "

ナレ「まず、逮捕までの経緯を聞いた。ケリー氏は北米日産のオフィスにすることが多く、特別な場合を除いては、日本に来ることがなかったが、去年の11月19日に来日するよう、電話で要請があった。」

ナレ「電話の相手は、日産の外国人執行役員。この時、既に、東京地検特捜部の、司法取引に応じていた人物だった。」

"金平 (字幕) 「日産本社は、あなたに東京に来るように求めた？」

ケリー氏 「Yes,It did」

金平 「because (字幕) Q、重要な議案を話し合うということですか？」

ケリー氏 「Yes」 "

ケリー氏 (吹替) 「私は、両手のしびれがひどく、1週間ほどで、首の手術を受けることになっていました。ですので、ビデオ会議で参加するつもりでした。」

ナレ「頸椎トウサク症の手術を控え、来日を渋るケリー被告に、執行役員は、特別チャーター機を準備するから来てほしいと伝えてきたという。」

ナレ「16年前に撮影された日産の特別チャーター機の映像。移動中も仕事の打ち合わせができ、出入国の手続きにかかる時間も大幅に短縮できる。だが、代表取締役を6年間務めたケリー被告が特別チャーター機の移動を提案されたのは、この時が、初めてだったという。」

ケリー氏 (吹替) 「あの時初めてチャーター機に乗りました。いつもは普通の旅客機です。車で少し走ったら、ワゴン車に止められ、男たちが近づいてきて、その一人が検察官だと名乗りました。とても驚きました。尾行されていたのかもしれませんが。さらにパーキングエリアで止めるように言われ、ワゴン車から検察官がたくさんおりてきました。しばらくはなぜ逮捕されたのか分かりませんでしたし、首の手術も受けなければいけないのに、飛行機を降りていきなりということで、衝撃を受けました。」

ナレ「飛行機から乗り換えた車を突然止められ、東京・品川区の大井パーキングエリアで東京地検特捜部に逮捕されたという。」

ナレ「そのまま、東京拘置所に直行し、勾留されることになった。同日、羽田空港に降り立ったゴーン被告も、到着後の機内に乗り込んだ検察官らによって、逮捕された。」

ナレ「ケリー被告は、当時会長だったカルロス・ゴーン被告の報酬を、有価証券取引報告書におよそ、91億円少なく記載した金融商品取引法違反の罪に問われている。この91億円は、ゴーン被告が役員退任後に受け取る形にしていたとされる。」

ナレ「しかし、ケリー氏によると、この退任後の報酬は、開示される取り締まり報酬の金額を減らすために、考案された者ではないという。当時、日産のナンバーツーだった副社長、西川ヒロト氏の強い意向があり、ゴーン氏を会社に慰留するために、検討が始まったという。」

ケリー氏 (吹替) 「西川さんはカルロス・ゴーン氏が、日産との関係を続けるか非常に心配していました。CEOとして、残ってほしかった。だが、ゴーン氏は競合会社のCEOに比べて、報酬額が低い。それでゴーン氏に対して、退任後も含め、日産との関係を維持してほしいという、思いを示そうとしたのです。」

ナレ「これは、2011年、11月、ゴーン氏の退任後について社内で、検討した、雇用契約の原案だという。10年間と期間を区切った上で、事業戦略、メディア対応、政府との交渉、その他、重要な事業案件についての

アドバイザーを務めると、書かれている。競合他社の競合を禁じる項目もある。手書きの青い文字は、ゴーン氏自身が書き込んだとされる契約条件の修正だ。アドバイザー就任の一時金、30億円を消して、4000万ドルに。年間給与3億円を消し、400万ドルに引き上げている。さらに日産と関連会社が所有するリオデジャネイロ、パリ、レバノンの不動産の権利を、ゴーン氏に授与するとした項目の後に、別のレバノンの物件について、33%の所有権を付け加えている」、

ケリー被告、(吹替)「西川さん自身もルノーの取締役だったので、ルノーとフランス政府がゴーン氏に圧力をかけていることを、知っていました。ルノーは日産に対する支配を強めようとしていたのです。ゴーン氏を引き抜こうとする他社の動き、過去にもありましたが、これも心配していました。ゴーン氏こそ日産の独立を守るうえでのキーパーソンだと思っていたのです。」

ナレ「この契約書の原案に、日産を代表してサインしたのが、当時の副社長、西川ヒロト氏だったという。」

金平「This is the Mr saikawa'S sigh? (字幕) Q、西川氏のサインですか?」

ケリー氏 (吹替)「そうです。彼のものです。」

金平 (字幕)「Q、どこでサインをした?」

ケリー氏 (吹替)「彼のオフィスのデスクです。契約書ではなく、文書ですが、ここでサインしました。」

ナレ「一方、今年3月に公表された日産のガバナンス改善委員会の特別報告書は、この退任後の報酬は、開示される取り締まり役報酬の金額を減らすために検討されたものだとしたうえで、これに西川氏は、関わっていないとしている。」

報告書 (吹替)「ケリー氏をはじめとする特定少数の者の間で、開示せずに支払う方法について、様々な検討が行われた書面も残されており、ゴーン氏の署名が付されたものもある。」

ナレ「さらに、ケリー氏の果たした役割について、報告書は、」

報告書 (吹替)「ケリー氏をトップに、特定少数の者に権限を集中させた。ケリー氏は契約締結を含む日産の法務事項を管轄する最上位の責任者であった」

金平 (字幕)「あなたとゴーン氏に全ての責任があるとされるこの報告書について?」

ケリー氏 (吹替)「調査委員会の誰かが、私に事実を確認してほしいです。調査委員会は本来そうすべきですが、結局私は、説明する機会を一度も与えられませんでした。この件は内部の委員会や役員会、日産社内ですべて解決できたし、刑事事件などにする必要もなかったんです。」

金平「Please explain the・・・(字幕) あなたとゴーン氏の西川氏の力関係は?」

ケリー氏 (吹替)「ゴーンさんは会長兼 CEO、西川さんは会社のナンバーツーでした。つまり彼らこそが、日産で最も大きな権限を持つ役員だったのです。私は人事などを管理していました。明らかに彼らの方がずっと権限を持っていました。私は彼らに使われていた身です。」

ナレ「さらに、ケリー氏は西川氏が自身の不動産を日産の資金で購入することを検討していたと主張する。」

ナレ「これは、番組が入手した西川氏がケリー氏に宛てたとされるメールだ。2013年の、4月22日、西川氏は、こう持ち掛けている。」

メール (吹替)「グレッグ、私自身の住宅問題を解決しなければなりません。会社が住宅を購入し、私が月々の家賃を支払ってそれを借りる。買い方としては、私が毎年一定額を支払い、残りの金額を退職の時に完済する形があります。」

ナレ「実際には、日産が、西川氏の不動産を購入することは無かった。一方で、メールの2か月後、西川氏は、多額の役員報酬を、現金で受け取っていた。ケリー氏は、今年6月、雑誌の取材に応じ、この役員報酬について、問題があったと主張していた。」

ナレ「この報酬は株価連動型報酬、SAR という仕組みで支払われた。役員に株主の株価への関心を共有させる目的で、90年代に導入が始まった。あらかじめ、基準の株価を決め、報酬を受け取る権利を行使した日の株価との差額が、会社からの報酬となる。西川氏の役員報酬は、この行使日を1週間遅らせることで、本来より、4700万円増額されたという。」

ケリー氏（吹替）「西川さんは明らかに SAR の行使日をいったん決めたのですが、SAR の管理権限を持っていた秘書室が、西川さんへの特例を決め、西川さんもそれを受け入れたのです。それまで SAR の行使日を変えた特例を、私は知りません。」

ナレ「この西川氏の株価連動型報酬、SAR の問題は、雑誌が記事を掲載してから、3カ月後、注目を集めることとなる。先月開かれた日産の取り締まり役会で、社内の監査委員会によるゴーン被告らに不正行為があったという調査結果が報告された。」

ナレ「その社外取締役らが会見した。」

独立社外取締役 木村 康氏「もう一件皆さん方にご報告がございます。西川 CEO の辞任についてであります。」

ナレ「続投の意志を示していた西川社長兼 CEO の1週間後の辞任が発表されたのだ。質問は西川氏の株価連動型報酬、SAR と、辞任との関係に集中した。」

記者「SAR ととかですね、その報酬の問題、それがその今回その辞任にどのように影響したかというのは・・・」

独立社外取締役 豊田正和氏「SAR も含めてですけれども、全体の流れの中で一つの区切りがついたから、ということ、辞任を申し出られたというふうに聞いています。」

記者「SAR についてなんですけれども、本人は知らなかった。じゃあ誰が、何のために？されたのでしょうか？」

"独立社外取締役 永井 素夫氏「オペレーションについて、秘書にゆだねていたと。オペレーションした日がたまたま、あの、基準価格を下回っているの、」

「オペレーションした日がたまたまあの、基準価格を下回っているの、その場合には、マイナスになるということ、それを行使日を少しずらしたということでございます。事務的な錯誤と理解しております。」"

記者「西川さんは全然知らないで、やったということなんですか？」

永井氏「西川さんはですね、ヒアリングの中でもご説明されてますけれども、グレッグ・ケリーがした依頼をしたことは無いと」

ナレ「これは、日産の秘書室によって作成された西川氏の役員報酬についてのシュミレーション結果だという。提案と記されている。当初のプランでは、一株1111円で権利を行使した場合の金額は、1億900万円に。株価が上昇した1株1232円の時に行使すれば、報酬額は、1億5600万円に。その差額は、4700万円となる。ケリー氏は、こう強調する。」

ケリー氏（吹替）「批判をするつもりはありませんが、西川さんは確かに SAR の権利を行使しました。秘書室は特例を認めました。西川さんはその特例を受け入れ、別の日に SAR を行使しました。調査委員会には、事実を提供したいです。」

ナレ「株価連動型報酬、SAR の行使日をずらす行為について、専門家に聞いた」

琴平総合法律事務所 澁谷 展由弁護士「ずらす決定権というのは、そもそも会社と役員の報酬に関する契約なので、あの、個人でずらせるものなのかっていうのもありますし、あの一すると、社内手続きとか、会社で決められている会社法上、この会社ではこういうふうにといったことに反しているって可能性もありますよね。」

ナレ「先月、社長を辞任した西川氏。ケリー氏の主張に何を思うのか。」

西川氏「これだけのことを起こしているじゃないですか。実際。それに対してね、なんか感じないのかと。」

ナレ「先月、日産自動車から、突然の辞任を発表された西川ヒロト氏。株価連動型報酬、SAR の行使日をずらす

ことで、本来より、4700万円多く、報酬を受け取っていたことが明らかになっている。辞任をなぜ決断したのか。」

金平「ご本人に思ったよりも早い段階で、辞任というような結果になったのも、その社内調査のですね、SARのことが、一番の要因だったというような報道もありますすけ・・・」

"西川氏「あの一まず一つね、その取締役会の中の議論がね、皆さんのとこに漏れ出していくっていうね、」

金平「全部漏れてますね。これ」

西川氏「これも一つね、とんでもない話ですけども、監査委員会の後ね、情報が漏れだしている。その性という言葉がね、やはり車内も動揺しました。やめるべきか、CEOを降りるべきか、これ、私の一存では決められませんし、私の意志と取締役会の皆さんの総意というかね。ものですから。その中で、まあ議論していただいたということですね。」

ナレ「株価連動型報酬、SARについては、自ら監査委員会に調査を要請したという。」

金平「エーケリーさんの証言というのは、大変失礼ですが、そのその前にですね、西川さんの方から、会社の方で不動産を購入してくれないかというような話があって、それを調達を頼んだものと、そのSARのですね、運用っていうのが連動しているんじゃないのか・・・。」

西川氏「全く関係ないですね。それも含めて、全部調査をしてもらいました。私が調査を頼んだんです。調べてくれと。その結果、社内のルールに・既定に、違反したことをやっていたということが分かったということですね。それが事実なんですよ。」

"金平「あの部下に任せていた。秘書に任せていたから、その部分が報告に無いまま、進んでしまった、そういう解釈でよろしいですか」

西川氏「はい。」

ナレ「株価連動型報酬、SARの行使については、全てケリー氏と秘書室に任せていたため、社内調査の報告を受けるまで、行使日がずらされていた事実を知らなかったという。また、ケリー氏が主張する不動産購入の依頼については、自宅を会社で購入するように、ケリー氏に依頼した記憶はありませんと答えた。」

"金平「ケリーさんに対して、何か反論したいことはございますか？」

西川氏「反論ではないですよ。反論なんてする気もないですけどね。前に申し上げた通り、あの一その二人ね、まあ私も含めて皆さん含めてですね、それだけお客様に心配をかけているし、それだけのことを起こしてるじゃないですか。実際に。それに対してね、なんか感じないのかと。いうことですね。その誰が良い、悪いじゃなくてですね、そういう部分で、申し上げたんですけども、その、謝罪ってんですか。あの一今一言も聞かれないですよ。あれはこうだ。これはこうだばかりじゃないですか。これが非常に残念だし、あの一まああってはならない姿勢であると思いますね。」

ナレ「外交官として日本に滞在経験があり、企業法務の専門家でもあるジャン・イブ・コラン氏。ゴーン氏の報酬を巡る問題はヨーロッパなら、社内手続きによる修正で済む話だという。」

コラン氏（吹替）「ゴーン氏、西川氏、ケリー氏の間で議論されたということですね、西川氏はその部門のトップだったわけですから当然のことですが、これはゴーン氏がたった一人で考えたものではないでしょう。企業経営のトップの間でやり取りして決める種類の内容だと思います。なぜこんなふうに（社内で解決せずに）なぜ東京地検に持ち込んだのか、理解できません。」

ナレ「私たちは、日産に対し、逮捕されたケリー氏だけでなく、西川前社長、ゴーン氏の退職後の報酬について、詳細を把握したのではないかと聞いた。その回答は」

日産の回答「ゴーン氏の真実の報酬額の決定や、これを退任後に開示せずに支払う方法の検討は、ゴーン氏やケ

リー氏らにより行われたものであり、西川氏がこれらの点を、認識・了承したものではありません。これ以上の詳細については、コメントを控えます。」

ナレ「ケリー被告、ゴーン被告、法人としての日産の初公判は、来年、春にも予定されている。」

ケリー氏（吹替）「真実を話す用意があります。犯罪の嫌疑については、私は断固、否認します。」

ナレ「一方、日産への思いは・・・」

ケリー氏（吹替）「今は日産にとって大変な時です。でもとても才能ある人たちが働いています。世界中でいろいろな人が働き、大変才能がある日本人もいます、日産にとって、ベストとなるよう、祈ります。繁栄し、利益を上げ、職を守り、株主も利益を得られますように。」

特集のVTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

膳場「西川氏は昨日付で、番組に文書を送ってきました。そこではゴーン氏の退任後の報酬についてこう書いています。私はゴーン氏に未払いで開示されていない在任中の役員報酬があること自体知りませんでしたし、ケリー氏の提案内容が、本当は、その在任中の役員報酬を、名目を偽って秘密裏に支払う手段であったことも全く知りませんでした。」とこう主張しています。」

金平「あの一同じ西川社長にですね、同じその回答の中ですね、ゴーン氏が引き抜かれるのを防ぐために、退職後の報酬を手厚いものにしようと、ケリー氏の側から言われて自分もそれに賛成しただけだと主張しているんですね。えー一方でケリー氏の方は、」

金平「西川氏の方が主導したんだと。その証拠に退職後の報酬契約書にサインまでしてるじゃないかと。このあたりの対立点が、最後にどうなるのか。ただ取材してですね、検察側の組み立てのですね、意見の組み立ての構図がですね、それほど、盤石ではないなという印象を個人的には持ちました。」

日下部「今回の事件ですけれども、日本の司法制度についても、海外からの注目を集めました。」

金平「そうですね、あのゴーン氏が国際的なビジネスマンであるということに加えてですね、もう一つはその人質司法ですね、いわゆる人質司法と言われている日本の、検察の捜査のありようというのがですね、非常に注目を集めた原因になっていると思いますですね。まあ当たり前のことなんですけれども、海外からの目も納得できるような公明正大な裁判が行われることを期待したいと思います。取材は今後も続けていきます。」

この特集にあてられた時間は 1554 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・22日に即位礼正殿の儀

ナレーションの「当日は安倍総理の万歳三唱に合わせて」の部分で、映像と音声途切れていたが、こういう放送事故のようなことは普段は見られないだけに、なぜこのような現象が起きてしまったのか、また途切れてしまった部分で本来はどういった言葉が語られていたのか気になるところである。

・【特集】“側近”が語るゴーン事件

スタジオでは日下部キャスターの「今回の事件ですけれども、日本の司法制度についても、海外からの注目を集めました。」というコメントに対して金平キャスターが「そうですね、あのゴーン氏が国際的なビジネスマン

であるということに加えてですね、もう一つはその人質司法ですね、いわゆる人質司法と言われている日本の、検察の捜査のありようというのがですね、非常に注目を集めた原因になっていると思いますですね。まあ当たり前のことなんですけども、海外からの目も納得できるよう公明正大な裁判が行われることを期待したいと思います。取材は今後も続けていきます。」と応えていた。

確かに日本の司法制度のあり方や起訴された被告人の有罪率の異常な高さあるいは人質司法などは諸外国から見て異様に映るのかもしれない。しかし、そうした被告人の有罪率の高さを前提にした容疑者がさも有罪であるかのように伝える犯罪報道の在り方についても問題がある、そしてそうした報じ方が検察や裁判にも影響を及ぼしている恐れがあるのではないだろうか。